資料１

**＜文部科学省障がい者スポーツタスクフォース＞**

**ヒアリング内容**

**（１）当社の障がい者スポーツ推進に関する取組内容**

**①2013年6月より、障がい者アスリートの雇用２名（現在１名）**

**１）夏目堅司選手　アスナビパラリンピック雇用第一号**

**シットスキー**

**●経歴、大会成績**

**2004年より競技を始め、2010年のバンクーバーパラリンピックに出場**

**2013年世界選手権　スーパー大回転6位入賞。**

**2013年6月ジャパンライフ株式会社に入社**

**2014年ソチパラリンピックスーパー大回転6位入賞。**

**2015年ノースアメリカンカップ　ダウンヒル1位。スーパー大回転3位。**

**2016年６月　契約満了により円満退社（本人が今後のキャリアのため、車いす制作の企業に入社希望したため）**

**●当社での仕事**

**主に練習に専念。（冬期は大会と練習。海外に遠征。夏期はトレーニングとニュージーランドなどへの合宿。）**

**中央研究所に所属し、商品開発やオフシーズンには障がい者スポーツ大会に出向き、レポートをして、当社の社内誌に掲載した。**

**２）塩入新也選手　電動車いすサッカー**

**主に練習に専念。**

**電動車いすサッカー大会の出場、その結果を当社社内誌に掲載。**

**（２）上記取組を行うこことなったきっかけ**

**2013年2月ごろ、JOC理事で当社が関連する公益財団法人の常務理事でもあった方より、当社でオリンピックアスリート候補を雇用できないか、という打診があり、JOCナショナルトレーニングセンター　キャリアアカデミー事業（アスナビ）の八田氏を紹介していただいた。**

**候補者のファイルを見せていただいたが、当社でサポートできるような候補者がおらず、オリンピックアスリートの雇用はできなかった。**

**一方同時期に、当社の人事部より、2013年4月1日より、障がい者の雇用率が引き上げになる（民間企業は１．８％から２％に引き上げ）ということで障がい者雇用をどうしたらよいかという相談があった。**

**そこで、こちらから再度八田氏に連絡を取り、パラリンピックのアスリートをご紹介していただけないかと打診したが、その当時は障がい者アスリートの紹介部門自体がなく、紹介をしていないとのことだった。**

**（その当時は、オリンピックは文科省、パラリンピックは厚生労働省の管轄になっていた）。**

**しかしその後、5月ごろに、八田氏が何名かパラリンピックの候補者を推薦してくれた。**

**その候補者の中から、2013年6月、バンクーバーパラリンピックの出場経験があり、ソチパラリンピックもほぼ出場できそうだということで上記の夏目選手と当社のミネラルウォーターの工場がある霧島市在住の塩入選手を採用するにいたった。**

* **取組によるメリット**

**①法定雇用率のアップ。**

**車いすの方は2名分の雇用になるため上記2名の雇用で4名分の障がい者雇用ができた。**

**（当社でも工場では障がい者を雇用しているが、応募者がなかなかなく、障がい者雇用ができなかったので、障がい者雇用に貢献できた）。**

**②マスコミの取材を受けた。**

**ソチパラリンピックの関連で夏目選手が地元の信濃毎日新聞の取材を受け、2014年2月26日に掲載された。**

**そのほか、朝日新聞、毎日新聞の取材も受けた。**

**③社会貢献**

**当社の社内誌やフェイスブックなどで夏目選手や塩入選手の動向や活躍を報告することで、社内外に社会貢献をアピールすることができた。**

**④夏目選手のソチパラリンピック出場と6位入賞により、社内で盛り上がる。**

**夏目選手がソチパラリンピックに出場することができ、スーパー大回転では6位に入賞することができた。**

**ソチパラリンピックのときは、当社の埼玉工場（埼玉県本庄市）内にパブリックビューイング会場を設け、社員が応援して盛り上がった。**

**社員全員が寄せ書きを書き、夏目選手に送った。**

**2013年6月に夏目選手がソチパラリンピックに内定し、同年9月に２０２０東京オリンピックパラリンピックの開催が決まったので、パラリンピックの言葉をマスコミでもよく聞くようになった。その結果、夏目選手の応援でもオリンピック、パラリンピック関係なく応援していた。**

**→オリンピック、パラリンピック関係なく、アスリート社員として応援できたので、夏目選手に関しては障がい者スポーツという感覚ではなく、一競技としてパラリンピックを社内あげて応援した。**

**３）障がい者スポーツ団体への支援が企業をはじめとした社会全体の取組に拡大するために必要と考えられること。**

**①競技団体の人員の解消。人員不足ということで支援の話が進まないため。**

**→当社は、アスナビにパラアスリートの雇用を提案したにもかかわらず、障がい者スポーツ推進では、現在塩入選手を雇用しているだけにとどまっています。**

**理由としては、何か取組みたいとしても、結局は競技団体に取りまとめる人がいない、人員不足ということでいつも話が進まなくなってしまうことが挙げられます。**

**小さい競技団体では競技人口や支援を必要としている人や内容の把握ができてないのが現状です。**

**→競技団体がしっかりしているところは大手企業がスポンサーとして入っているため、新規参入の企業は参入できない。→したがって、何か支援しようとすると（失礼ですが）マイナーな競技や大手スポンサーが入っていない競技を支援することになるので、一企業だけではなかなか支援できない、どのようにやったらよいのかのきっかけもない状態です。**

**アスナビの交流会でも、企業側はパラアスリートを雇用したくてもアスナビの登録者が足りないという現状がありました。**

**②パラリンピック競技やパラリンピック以外の競技の障がいの種類の把握、整理、分類をして、企業や団体がどの分野を支援できるか、支援をしたらどのようなメリットがあるかを提示する必要がある。**

**例）**

**以下は筆者の主観です。**

**１．企業がサポートする場合の視点**

**①．新規参入できるかどうか。**

**障がい者スポーツですでにサポート体制がしっかりしていそうなもの。**

**↓**

**「日本障がい者スポーツ協会」（JPSA）が主催する日本国内最高峰の障がい者スポーツ大会**

**1991年　ジャパンパラ競技大会**

**2011年からジャパンパラリンピックの競技種目＝陸上、水泳、アーチェリー、ゴールボール、ウィルチェアラグビー、スキー（冬）**

**JPSAは超大手企業26社がオフィシャルパートナーなので、上記の競技はそれ以外の企業は競技の普及などの支援はなかなかできません。**

**②障がい者スポーツを競技としての普及する場合の分類**

**健常者の競技人口、なじみがあるかによる分類**

**健常者と一緒にできるスポーツか。**

**競技として見ておもしろいか。**

**●健常者でも競技人口が少ない、競技の専門性が高い（筆者の主観）**

**フェンシング、**

**射撃、**

**馬術**

**カヌー、　　　　　　　　おそらく、練習環境も限られる。**

**ボート、**

**アーチェリー、**

**パワーリフティング**

**テコンドー**

**自転車競技**

**トライアスロン**

**ラグビー**

**●格闘技よりのスポーツ**

**柔道**

**テコンドー**

**●健常者がスポーツとしてなじみがある、やったことがある**

**バスケットボール**

パラリンピック種目では

車いすを使う。　陸上は義足も使う。

**陸上**

**卓球**

**テニス**

**サッカー**

パラリンピック種目では車いすを使わない競技。

**バレーボール**

**水泳、**

**バドミントン、（未定）**

**●障がい者向けに開発されたスポーツ**

**ゴールボール**

障がい者向けスポーツではあるが、健常者

も一緒にプレイできそう。

**視覚障がい者5人制サッカー**

**シッティングバレー**

**ボッチャ**

**③雇用や個人選手へのサポートの提案、事例の提示**

**企業が障がい者スポーツ選手を雇用する場合、個人競技の選手をサポートするか、チーム競技の選手をサポートするか、スポーツ選手として採用するのか、障がい者雇用として採用するのか企業の意識により、練習内容や業務内容が違ってくる。**

**④障がい者アスリートの雇用の促進**

**現在、「アスナビ」はパラリンピアンまたは、パラリンピアン候補の雇用に限られるが、すでにスポンサーがいる選手が多い。**

**競技団体に人員がいないと次世代のパラリンピアン候補者を把握していないので、企業がアプローチできない。**

**↓**

**次世代のパラリンピアンの候補者（社会人パラアスリート）の支援、育成、**

**中高生、大学生で現在競技をしている人の支援（たとえば奨学金の支給など）は現状どうなっているか。**

**「日本障がい者スポーツ協会」（JPSA）の寄付の募集など？**

**●企業がサポートしやすくするためにはどうしたらよいかのまとめ**

**現在のところ、競技団体がしっかりしている競技、強化競技はスポンサーもついているため、新規企業は参入しづらい。まだスポンサーがついていない競技をサポートしようとしても競技団体に人がいない、などの理由できっかけがつかめなかったり、サポートしようとすると莫大な労力がかかったりして企業へのメリットが少なくなる。実行しようとすると、経営者が趣味的に純粋な社会貢献としてやることになってしまう。**

**企業のメリットを考えながら、障がい者スポーツの支援をするためには、ピンポイントで何を支援してほしいか、何を支援できるかをマッチングするような機能が必要なのではと考える。**

**以上です。**

**（参考）**

**２０２０年東京パラリンピック　２２種目（夏期パラリンピック種目）**

**障がいの種類別分類**

**（東京オリンピックパラリンピック競技大会組織委員会HPより抜粋し、筆者が分類）**

**１．肢体不自由、下肢障がい**

①．車いすフェンシング　（肢体不自由、下肢障がい）

②．車いすバスケットボール　（肢体不自由、下肢障がい）

③．シッティングバレーボール　（肢体不自由、下肢障がい）

④．射撃　（肢体不自由、下肢障がい）

⑤．パワーリフティング　（肢体不自由、下肢障がい）

**２．肢体不自由、上下肢障がい**

①．アーチェリー　（肢体不自由、上下肢障がい）

②．ウィルチェアラグビー　（肢体不自由、上下肢障がい）

③．車いすテニス　（肢体不自由、上下肢障がい）

④．カヌー　（肢体不自由、上下肢障がい）

**３．視覚障がい**

①．ゴールボール　（視覚障がい）

②．視覚障がい者5人制サッカー

　（視覚障がい（全盲）、GKのみ晴眼者または障がい軽い）

③．柔道　（視覚障がい）

**４．（肢体不自由（車いす、立位）、知的障がい）**

①．トライアスロン　（肢体不自由（車いす、立位）、知的障がい）

②．卓球（肢体不自由（車いす、立位）、知的障がい）

**５**．**（肢体不自由、上下肢障がい、視覚障がい）**

①．自転車競技　（肢体不自由、上下肢障がい、視覚障がい）

②．馬術　（肢体不自由、上下肢障がい、視覚障がい）

６．**（肢体不自由、上下肢障がい、視覚障がい、知的障がい）**

①．水泳　（肢体不自由、上下肢障がい、視覚障がい、知的障がい）

②．陸上競技（ロード、フィールド）　（肢体不自由、上下肢がい、視覚障がい、知的

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　障がい）

③．ボート　（肢体不自由、上下肢障がい、視覚障がい、脳性まひ）

**７．（肢体不自由、重度脳性まひ者、同程度の四肢重度機能障がい者）**

①ボッチャ　（肢体不自由、重度脳性まひ者、同程度の四肢重度機能障がい者）

**８．（障がいの種類現在未定）**

①．バドミントン（2020年東京オリンピックより正式種目）（障がいの程度現在未定）

②．テコンドー　（2020年東京オリンピックより正式種目）（障がいの程度現在未定）